

(2) イノベーションを創発する担い手づくり

「知」^{はぐく}を育む

科学技術都市の構築に当たっては、新たな価値を生み出す「知」の連鎖的な創出が欠かせない。そのためには、産学公連携の下、国の競争的資金も活用しながら、技術革新の源泉となる独創的な研究開発を支援するとともに、地域経済の担い手である中小企業の技術力向上や新事業展開のための実用的な研究開発を支援することが必要となってくる。

また、「知」を^{はぐく}育む基盤となるものは、「ひと」である。創造的な科学技術の将来は、「ひと」の力如何に懸かっている。人口減少や少子高齢化が進む中、持続的な発展を図るためには、科学者や研究者のみならず、産業科学技術の振興を支える多様な人材の活躍が不可欠となる。そのため、一人一人の持つ能力が最大限発揮されるよう、人材育成に取り組んでいく。

研究の推進

① 技術革新の源泉となる独創的な研究開発の支援

科学技術都市の構築に当たっては、新たな発明及び発見が経済と社会に大きな付加価値をもたらし、その変革につながるよう、革新的な研究成果を技術革新へと次々と効果的につなげていかなければならない。

このため、とりわけ世界を先導し得る先端的な研究分野（ナノテクノロジー、バイオテクノロジー及びその融合分野）については、産学公連携の下、知的クラスター創成事業等も含め、国の競争的資金を活用しつつ、優れた技術革新の源となる研究シーズ（種）の発掘段階から熟成へと向かう段階を重点的に支援していく。

② 中小企業等の活性化につながる研究開発の支援

研究開発や産学公連携による成果から新しい製品等の形で事業化を実現していくためには、事業者の研究開発が不可欠であり、基盤技術や試作段階も含めた中小企業等をはじめとした研究開発を活性化させることが重要である。

このため、京都市産業技術研究所をはじめ、支援機関等を通じて、事業者のレベルに合ったきめ細かな技術移転と指導、広域的な企業間の連携、ものづくり技術者等の人材育成等を通じて、中小企業等に対するものづくり技術の強化や高度化に向けた取組を支援する。

人材の育成

① 多様な人材が活躍できる環境の整備

科学技術力の基盤は「ひと」であり、多様多才な個々人が意欲と能力を発揮できる環境を形成しなければならない。総合的な人材育成制度は国を中心として取り組まれることとなるが、科学技術都市の構築を目指す本市においては、人口減少により研究者等も相対的に減少することが予想される中、男女共同参画を一層推進する立場から、産業科学技術分野での女性の参画が拡大するための取組を推進する。

また、優秀な人材が国籍を問わず集まり活躍ができるよう、「共に生きる社会」を構築する観点や、人材交流により世界的な視点を持った人材を育てていく観点も踏まえ、大学等とも連携しながら、地域全体としての魅力的な環境を創出していく。

更に、「知」が活用されるためには、技術と経営との融合や地域社会との連携など、多様な人材の活躍が期待される場所であり、様々な機会を利用した人材の活用や交流を促進していく。

② 科学技術に触れる身近な機会の提供

産業科学技術に係る活動は、市民から独立して存在せず、広く地域社会や市民に支持されなければならない。

このため、産学公が連携及び協力し、研究者等によるセミナー、研究者や技術者等様々な人との交流、研究施設やものづくり現場の公開、先端科学技術の体験等を通じて、複雑化・高度化する科学技術を市民に分かりやすく伝え、科学技術を理解し、活用できるようにすることを目指す。

また、ものづくり技術や本市の発展を支えた近代化遺産及び産業文化財を生かし、ものづくりの大切さ、楽しさを理解する環境を整備する。

Column 科学の面白さを体験！親子科学体験教室

研究成果活用プラザ京都では、科学技術の魅力を子供たちに伝えることを目的に、身近な題材をもとに親子で科学実験・科学工作に取り組みながら科学の面白さを体験する「親子科学体験教室」を年2回実施しています。

H17.8 夏休み親子科学体験教室～光ってなに……光の正体をみつけよう！

- ❖ 科学マジック
- ❖ 光の正体を見つけよう
- ❖ 工作教室「万華鏡をつくってみよう！」

H18.4 親子科学体験教室～ブランコはなぜこげるのか？

- ❖ クマちゃんブランコで大車輪
(ブランコから「力やエネルギー」の秘密を探ります。)
- ❖ 工作教室「念力ふりこをつくってみよう！」

